

Kendai Magazine

福岡県立大学 広報誌



Fukuoka Prefectural University

No. **27** | 2019
AUTUMN

オープンキャンパスが
開催されました

Contents

福岡県立大学 入学式／田川飛翔塾	P2
オープンキャンパス	P3
国際交流	P4
知事対談	P5
TOPICS	P6
TOPICS／秋興祭	P7
サークル紹介	P8
教員研究紹介	P9
新規採用教職員紹介／名誉教授 授与式	P10
インターネット出願を導入	P11

Entrance
ceremony

福岡県立大学 入学式

平成31年4月3日(水)、江口副知事をはじめ多くの来賓の皆様のご臨席をいただく中で平成31年度の入学式が挙行され、学部学生262名、大学院生24名、計286名が入学しました。

柴田学長は告辞の中で、「先輩や後輩、先生方、さらには地域の方々との暖かな交流により、しなやかな心を持ったたくましい人に育ってください。そして、他人を気遣う豊かな心、Warm Heart、現実適切に対応する冷静な判断力、Cool Head、世のために尽くす積極的な行動力、Tough Muscle、この3つを兼ね備えた人となるよう、努めてください」と述べました。



↑ 告辞を述べる柴田洋三郎 学長



↑ 学部入学生代表 渡辺路紀さん



↑ 大学院入学生代表 吉田麻美さん



↑ 祝辞を述べる江口勝 副知事



田川飛翔塾



令和元年8月9日(金)、田川地域1市6町1村の中学2年生35名が参加する「田川飛翔塾」の入塾式が本学で行われ、小川洋福岡県知事による訓話がありました。

田川飛翔塾とは、将来様々な分野でリーダーとして活躍する人材の育成を目的としたサマースクールです。参加する学生は4泊5日の合宿生活の中で各界のリーダーによる講義や、田川地域全域から集められた学生同士のグループワークなど、学校教育では体験できない貴重な時間を過ごします。

今年度も本学から8名の学生が、生徒指導を行うグループリーダーとして参加し、塾の運営に携わりました。

また、8月17日(土)には県立英彦山青年の家において柴田洋三郎学長による講義が行われました。

OPEN CAMPUS

令和元年8月3日(土)に夏のオープンキャンパスを開催しました。炎天下にもかかわらず、来場者は、県内、九州各県にとどまらず、中国、四国、近畿、関東等、全国各地から過去最高となる1,748名もの方々にご参加いただきました。

当日は、学長からのメッセージより始まり、各学科の説明会や本学の「小論文・英語」の入試対策のポイント解説、在校生・教員に直接質問ができる「個別相談コーナー」、看護・心理学を体験できる「体験コーナー」、「キャンパスツアー」、「寮見学」等のプログラム等を実施しました。

来場者からは「小論文解説が具体的で受験対策にとっても参考になった。」「学科について詳しく知ることができた。」「在校生と話せて大学生活のイメージがわいた。」「話だけではなく体験もできてよかった。」などのお声をいただき、ご来場いただいた高校生や保護者の方に本学の魅力を伝える大変有意義な一日となりました。

また、9月7日(土)にも秋のオープンキャンパスを開催し、309名の方々にお越しいただきました。夏・秋、合計で約2,000名をこえるたくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。来年度のオープンキャンパスがより良いものとなるよう努めてまいります。



↑ 小論文解説



↑ 在宅看護ゾーン



↑ 妊娠・出産・育児体験ゾーン



↑ 高齢者疑似体験・認知症高齢者疑似体験ゾーン



International Exchange

国際交流

Kendai

派遣留学だより

威徳大学校(韓国)での留学を通して

威徳大学に留学して、様々な経験ができていると思います。授業は1日4時間あり、ベトナムや中国の友達と一緒に勉強しています。韓国人の先生から教えてもらえるので韓国語の能力も上がり、様々な国の人と交流できるのが留学のいいところだと思います。また、威徳大学には日本の言語文化学科という学科があり日本語ができる学生が多く、1人で留学した私にはとても心強かったです。私はサークルにも入ったので、ほかの学科の人や先生方と親しくなることができました。とても充実した生活を送っていると思います。しかし、日本と韓国では生活習慣や公共交通の使い方など違うところがあり、戸惑うことも多いです。正直、留学して最初の頃は不安でした。でも、生活していけば慣れるものです。なんにでも挑戦してみる大切さも知ること

人間社会学部 公共社会学科 3年 山口 舞衣

ができました。あと約半年ですが簡単にできることではない留学経験を、後悔がないように充実した生活を送ってみたいです。



Kendai

日本文化体験

留学生が受講する日本語授業(伊藤晴美先生)では、季節ごとに日本文化体験を行っています。5月に実施したお好み焼き作りには多数の県立大生が参加し、お好み焼きを作る共同作業を留学生と一っしょに楽しみました。また7月に実施した浴衣体験では、浴衣を着て七夕の笹に飾り付けをしました。各々の体験が、県立大生と留学生との交流を深め、また留学生の日本でのかけがえない思い出につながっています。



現在、福岡県立大学には14名の交換留学生在籍しています。留学生と本学学生が交流しながら福岡県の地域や文化について学習できるよう、年間5回程度留学生支援事業として福岡県内を訪問しています。2019年度は7月末までに3回実施し、飯塚市のひよ子製造工場や田川市石炭・歴史博物館、北九州市立いのちのたび博物館等を訪問しました。いずれの回も学生同士が楽しくコミュニケーションをとりながら、福岡県について学ぶことができました。



Kendai

留学生支援事業



県広報誌「グラフふくおか」夏号 特別企画として

知事対談を行いました

人間社会学部 公共社会学科 3年 田口 竣也



今回の知事対談の話をいただいた時に、大分県出身である私でよいものか、即答できませんでした。

しかし、他県から来ている私だからこそ、福岡県に来て感じた福岡県の良さや、疑問に思ったことを福岡県のトップである小川知事に直接話を伺うことができると思うと、こんなチャンスはないと思い、引き受けることとしました。

私は、野球をやっていることもあり、何事にも緊張しないで平常心で臨むことができますのですが、実際に知事が私の前に座られたときは、そのオーラに圧倒され、とても緊張しました。

厳しい人なのかと心配していましたが、私が質問することに対して、とても分かりやすく、丁寧に、時折ユーモアを交えて回答してくださり、自然とリラックスすることができました。

知事は、大学生活や野球のことなど、私のことを色々聞いてくださいました。知事が、県民一人一人の声を真摯に聞いてくださっていることを肌で感じることができました。

私は、大学のゼミで過疎地域の振興について勉強していることもあり、知事が、誰もが住み慣れたところで「働く」「暮らす」「育てる」この三つができる地域社会をつくっていく、そのために弱い立場にある方々、困難な問題を抱えている方々に寄り添う「温かみのある行政」を推進していくとおっしゃったことが一番印象に残っています。

行政については、詳しく勉強したことはありませんでしたが、私たちが生活する「今」と「未来」を見据えて、福岡県民のために知事が舵取りをしていることを知り、改めて福岡県に、福岡県立大学に来てよかったと思いました。

学生生活も折り返しとなり、今後、就職活動が待っていますが、今回の経験がきっと役にたつと思います。



「グラフふくおか」について
詳しくはこちら



TOPICS 01

田川ロータリークラブから コントラバスが贈呈されました

令和元年6月21日(金)に本学、学長室にて田川ロータリークラブから大学へコントラバスが贈呈されました。田川ロータリークラブからは、徳野会長、広滝幹事、藤井国際奉仕委員長、中寺同副委員長が大きなコントラバスを抱え、お見えになりました。学生を代表して、吹奏楽団の部員2名と柴田学長に楽器が贈呈され、大学からは感謝状を贈りました。



Topics

TOPICS 02

学生の災害ボランティア活動のために 災害ボランティアセットを購入



↑柴田学長、社会福祉学科 川口咲幸さん、松浦賢長教授

[セット内容]

- ヘルメット
- ヘルメットインナー
- ヘッドランプ
- ゴーグル
- トランシーバー
- イヤフォンマイク
- ベスト
- ライト
- グローブ
- グローブホルダー
- ホイッスル
- ウエストポーチ



昨年度、社会貢献・ボランティア支援センターに、寄付金をいただきました。近年、地震や豪雨のため災害ボランティアに参加する学生が増えているので、この寄付金で「災害ボランティア活動セット」を購入し、柴田洋三郎学長に報告しました。災害ボランティア活動のためのセットなので、出番がないことが一番ですが、万が一の際、災害ボランティアに参加する学生には、自分の身を守るため、また、現地の方に迷惑をかけないために、活用してもらいたいと思います。



福智町と本学、社会福祉法人福智町社会福祉協議会が
三社連携協定を締結しました

令和元年7月12日(金)、福智町と本学、社会福祉法人福智町社会福祉協議会が三者連携協定を締結しました。福智町からは黒土孝司町長、福智町社会福祉協議会からは白石勝彦会長がお見えになり、本学の柴田洋三郎理事長と調印式を行いました。

福岡県立大学と田川市郡との包括連携に関する協定の趣旨・精神に基づき、これまで築いてきた協力関係を踏まえ、地域福祉コミュニティの形成と地域包括ケアシステムの拡充に関する基本事項を定め、相互の発展、さらに地域社会の発展に資するため、協定を締結いたしました。

今後、福智町における地域づくりや介護予防、認知症対策などさまざまな事業と研究について連携し、協力していくことが話し合われました。

第28回

秋

興

祭

第28回秋興祭実行委員長
鍋山 朱帆

今年で秋興祭も28回目を迎えることとなりました。私たち実行委員会は総勢132名という大所帯で活動しています。イベント部・会場設営部・設備管理部・渉外部・企画部・宣伝部の6つの部署に分かれ、今年の4月から運営の準備を行ってきました。

有難いことに、秋興祭実行委員会は地域の方々と交流させていただく機会を多く持っています。地域の行事への参加を通して田川市について知ることができるのは私たち委員会の魅力の一つでもあります。

さて、第28回のテーマですが「Let's Playwa!! ～にぱっと笑顔がハジけるばい!～」に決定致しました。今年は新元号“令和”になり一回目の記念すべき秋興祭ということで歴史に残るような学祭を目指したいと意気込んでおります。テーマには私たち学祭委員を含めた県大生、先生方、地域の方々や遠方から来てくださる方々、保護者の皆様など、全ての人が初心に戻り、遊び心を持って楽しもう!という思いが込められています。日々の嫌なことも弾け飛ばして笑顔で過ごしていただけたら嬉しいです。

当日の2日間は盛り上がること間違いなしのステージ企画や迷って選べないほどたくさんの出店を用意しています。第28回秋興祭が皆様に楽しんでいただけるよう、そして無事成功に終わられるよう学祭委員一同頑張りますので、ぜひ足をお運びください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



サークル紹介

文化系

学生献血推進サークル

けんけつっち

人間社会学部 社会福祉学科 重野 朝香

私たちは同世代に向けて献血の大切さを広め、献血者数を増やし血液の安定した供給を目標に活動をしているボランティアサークルです。部員は1年生～3年生で約60名です。

私たちは、北九州学生献血推進連盟という団体に所属して北九州を中心とする6大学の学生と協力し、血液センターの方にご指導いただきながら活動しています。

主な活動は、5月と6月に博多どんたく港まつりパレードへの参加や福岡と北九州での合同合宿、8月と12月にはサマーキャンペーンやクリスマスキャンペーンという街頭献血など、他にも一年中楽しいイベントが盛りだくさんです！そして、年に2回、春と秋に行う学内献血ではサークルメンバーで運営や呼び込みをして学生主体に活動しています。月に一度の定例会では、これらのイベントに向けた話し合いや準備、献血についての勉強会などをします。

昨年度から田川ライオンズクラブ様と連携して田川市での街頭献血の広報や呼び込みを行い、地域のボランティア団体との活動にも力を入れています。ほとんどの活動が学生主体で行われ、他大学との交流もたくさんあるので、大きなやりがいを感じることが出来ます。



みなさんと一緒に献血を推進していきましょう！是非けんけつっちに足を運んでみてください。



体育系

バドミントン部

人間社会学部 社会福祉学科 村岡 彩香

こんにちは！バドミントン部です。私たちは週に2回、大学の体育館で練習しています。1年生から4年生まで約60名が所属しており、毎回の練習は20～30人が集まって行っています。参加する曜日や来る時間・帰る時間は部員それぞれの都合に合わせて調整できるので、多くの人が他のサークルとの掛け持ちや勉強・アルバイトと両立しながら活動しています。

「バドミントンなんてやったことない…」「初心者だから楽しく活動できるか不安」という人も多いと思いますが、部員の半数は大学からバドミントンをはじめて楽しく活動しています。もちろん経験者もいるので、レベルの高い練習や試合がしたい人にもおすすめです！また、経験者と初心者混合で団体戦をしたり、一緒に練習したりすることもあるので先輩・後輩問わず仲良くなれることもバドミントン部の魅力です。

普段の練習以外には年2回の北九州インカレという対外試合、他大学との練習試合、打ち上げや合宿などのイベントも行っています。イベントを通して部員同士はもちろん、他大学の学生とのつながりも深まります。

バドミントン部での活動は大学生活を大いに充実させてくれます。興味がある方はぜひ体育館へ見学に来てくださいね！



バドミントンがしたい、大学での友人を作りたい、他大学の学生と仲良くなりたいと思っている皆さん、私たちと一緒に楽しく活動しませんか？



手術を受けた患者と家族に対する 看護やシミュレーション教育に関する 研究を行っています。



看護学部 成人看護学 教授
福田 和美

01 research task 手術を受けた患者と 家族に対する看護

手術を受けた患者は、麻酔や手術の侵襲により手術後は心身ともに危機的な状態におかれます。そのため手術後の看護は、手術からの回復を促進するために手術後の合併症の早期発見と予防が求められます。手術後の合併症の中でも術後せん妄は、一過性の意識障害であり、発症により入院期間の延長や他の合併症の発症、予後への影響をきたします。また、発症が急激であるため患者の順調な回復を願っている家族にとっては予期しない突然の出来事になります。

そこで、私は術後せん妄を発症した患者の家族の体験や術後せん妄予防に向けた看護の検討について研究を重ねてきました。術後せん妄患者の家族は、手術前から手術後にかけて常にストレスフルな状況におかれ、患者の今後に対する不安を抱いていました。また、患者を「助けたい」と思うが、どのように関わってよいのかわからず、家族が関わっても変化しない患者の症状に対して失望や落胆の気持ちを抱いていたことが明らかになりました。これらの結果より、看護師は術後せん妄を発症した家族に対して、患者についての正確な情報提供を行うとともに、家族の効果的

なケア参加の必要性が示唆されました。この研究結果をもとに、現在は術後患者のケアを行う看護師と家族間の情報共有の実態を把握し、情報提供を基盤とした看護師と家族の協働による術後せん妄予防に向けたケアプログラムの検討を行っています。

02 research task シミュレーション教育に 関する研究

医療技術の進歩に伴い、臨床現場における看護師には高度な看護実践能力が求められます。しかし、看護基礎教育終了時までには、臨床で求められる実践能力を習得するのは困難な状況です。そのような教育現場の状況をふまえ、学生が安全かつ安心して確かな看護実践力を身につける教育方法としてシミュレーション教育が推奨されています。そこで、成人看護学の演習において、シミュレータを用いて、学生が捉えた手術後患者の観察内容の分析を行いました。その結果、講義内容の想起と意味づけを行い、感性を刺激できるような場面設定や学習環境の必要性が示唆されました。今後も効果的なシミュレーション教育の方法や成果に関する研究を行い、看護教育の質向上に努めていきたいと思っています。



↑台湾での学会発表



↑手術後の患者を想定した
シミュレータ

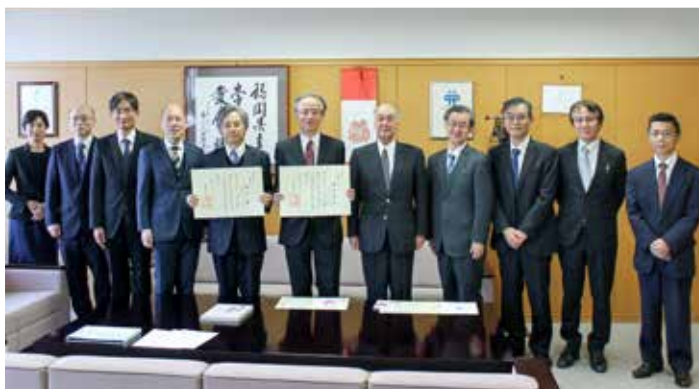


↑シミュレータを用いた演習風景

名誉教授 授与式

平成30年度末で退職された、細井勇人間社会学部教授、福田恭介人間社会学部教授に福岡県立大学名誉教授の称号記が授与されました。

名誉教授は、長年にわたり本学に勤務し、教育並びに学術上特に功績があった教員に授与される称号で、今回を含め28名に授与されています。



新規採用 教職員紹介

[H31.4.1 付]



氏 名 陸 麗君

学 部 人間社会学部 准教授

専門分野

都市研究、エスニシティ研究、中国地域研究、中国語教育法研究



氏 名 河本 恵美

学 部 人間社会学部 講師

専門分野

海事英語教育及び日本人海上管制官の英語誤用表現、文化・コミュニケーションの比較



氏 名 董 秋艶

学 部 人間社会学部 講師

専門分野

教育社会史、日中女子教育関係史



氏 名 石岡 洋子

学 部 看護学部 助教

専門分野

助産学 女性看護学



氏 名 山口 馨子

学 部 看護学部 助手

専門分野

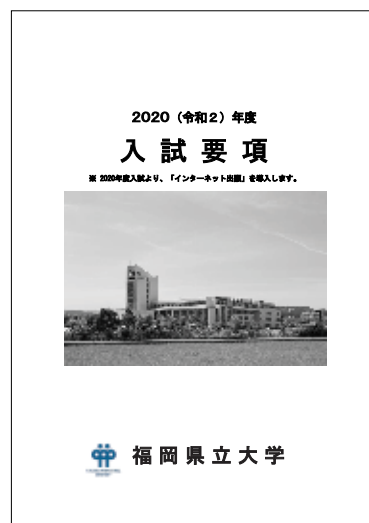
成人看護学

本学では、2020(令和2)年度入試(令和元年度実施)より インターネット出願を導入します。



導入する試験区分

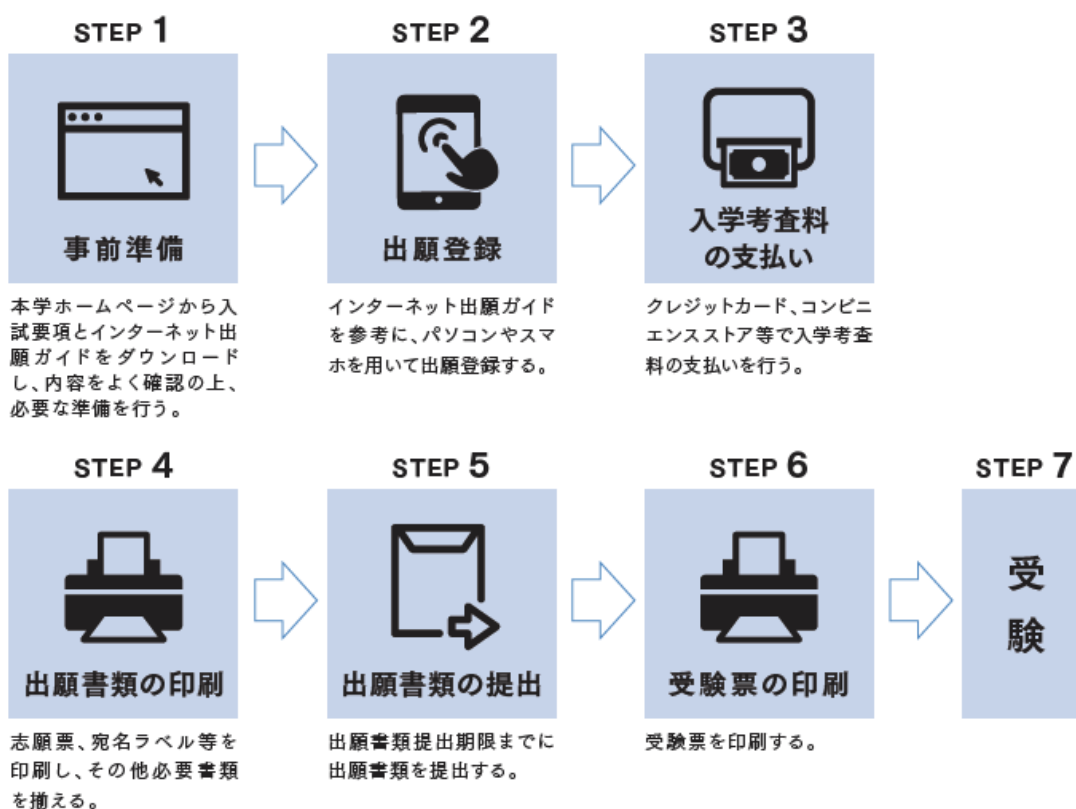
一般選抜（前期日程・後期日程）
推薦入試
社会人特別選抜
国外就学経験者（帰国生）特別選抜
留学生特別選抜



<http://www.fukuoka-pu.ac.jp>

※入試要項は冊子での配布は行いませんので、
本学ホームページからダウンロードしてください。

インターネット出願の手続き方法





福岡県立大学 基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実を図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の実施に活用されますが、用途を指定することもできます。

皆様方からの格別のご協力とご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

■ご寄附のお申込み方法

「福岡県立大学」のホームページに詳細をご案内しておりますのでご確認ください。下記の連絡先にお問い合わせ願います。

■連絡先

経営管理部総務財務班 TEL 0947-42-2118

Kendai Magazine

Fukuoka Prefectural University

No. 27 | 2019
AUTUMN

- 発行 福岡県立大学
- 所在地 福岡県田川市伊田 4395
- 電話 0947-42-2118
- 編集 学務部 教務入試班

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

